

3 お金を貯める・増やす・借りる

もしも、目の前に100万円があったら、使う？ それとも貯蓄や投資をする？
貯める・増やす・借りるで、お金と上手に付き合う方法を考えてみましょう！



とりあえず貯金したら
利息が付くから、
お得でしょ！



投資して
儲けられないかなあ。



投資したら
損する気がするなあ…。



貯蓄，投資，
違いを理解して
いるかな？



I お金を貯める

1 知っておくと便利！「72の法則」とは？

Think! 100万円を金利1%で運用した場合、200万円になるのに何年かかる？

A 36年 B 72年 C 108年

何か欲しいものがあったとしても手元にお金がない場合、みなさんならどうしますか？

誰かに借りる？ アルバイトする？ ガマンする？ いろいろな方法がありますが、多くの人は、コツコツお金を貯めるでしょう。そこで気になるのが、目標金額まで、どのくらいかかるのかということです。

こんなときに知っておきたいのが、「**72の法則**」です。次の計算式で、今あるお金が倍になるのに何年かかるかがわかります。

$72 \div \text{年利} = \text{倍になる年数}$

例：1%の場合で72年かかる

$72 \div 1 (\%) = 72 \text{年}$ (正解はB)

金利が低いと、倍になるまでに長い時間がかかります。



Think! 今の銀行の普通預金の金利で倍になるのに何年かかるか計算してみよう。

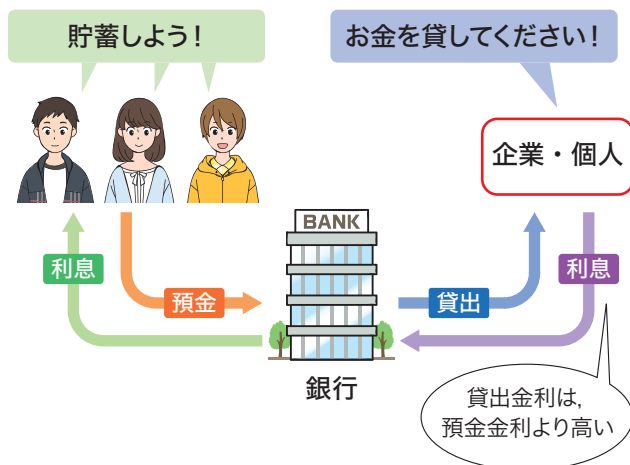
〈参考〉普通預金の平均年利率0.001% (2021年2月現在)

計算式

2 利息って何？

銀行などにお金を預けると、どうして利息が付くのでしょうか？

利息とは、お金の「**レンタル料**」ともいえます。私たちは、銀行にお金を預かってもらうという感覚ですが、実は、銀行側からみると、私たちがお金を貸してあげていることになります。銀行はそのお金を元手に、会社や個人にお金を貸し付けて「貸出金利」として利息を受け取っています。私たちは、その利息の一部を、預金の利息として受け取っているのです。



3 単利と複利について

私たちが銀行にお金を預けたとき、一定期間（通常1年間）にどのくらいの割合で利息が付くかを表すものに**金利**があります。よく銀行の店頭で「利率〇%」と表示されていますよね。それが金利です。金利が高ければ、利息もたくさん付きます。

また、同じ金利であっても、計算方法によって利息の金額に差が生まれます。これが**単利**と**複利**です。

単利	最初に預けた元本に対してだけ一定の割合で付く利息のこと
複利	最初の元本に一定期間後の利息を加えたものを、次の元本として、その元本に対して付く利息のこと

同じ金利なら、単利と複利のどちらの方が利息は多くなる？

元本に利息が組み入れられて毎年複利計算されていくと、期間が長くなるほど元利合計が大きく増えます。これを複利効果といい、金利が高いほどその効果が発揮されます。



ミニワーク

みなさんのお金を貯める**目的**、**期間**、**目標金額**を挙げ、そのために毎月いくら積立する必要があるか考えてみよう。

プラス ONE

●● 利率と利回りの違い

利率とよく似た言葉に**利回り**があります。利率は、元本に対する利息の割合のこと。利回りは、元本に対する一定期間に得られた利息の割合のことです。例えば、利率3%、1年複利の商品に100万円を預けると、1年後に3万円、2年後に3万900円の利息が受け取れます。2年間で6万900円の利息を1年あたり100万円に対しての割合で計算すると、利回りは3.045%です。



II お金を増やす

1 いろいろなお金の増やし方

金融商品には、3つの特性があります。

例えば、ゆうちょ銀行の通常貯金や銀行の普通預金は、ATMですぐに引き出せて**流動性**が高く、政府が発行する国債は元本と利息が保証されていて**安全性**が高く、高い収益が見込める投資信託や株式は**収益性**が高いという特性があります。



ただし、この3つをすべて兼ね備えている商品はありません。そこで、みなさんの資金のニーズや目的に合わせて、どの特性を重視した金融商品を選ぶかが重要になってきます。

Think! 次の資金を増やすときは、どの特性(流動性、安全性、収益性)を重視して運用するか考えよう。

	A 3年後の結婚資金	B 10年以上先の教育資金	C 20年以上先の老後資金
重視する特性 (流動性、安全性、収益性)			
理由			

2 金融商品の種類と運用上のリスク・リターン

金融商品の代表的なものとして、預貯金以外に、**株式**、**債券**、**投資信託**などがあります。このような収益性のある商品を選ぶ場合、忘れてはいけないのが、**リスク**です。

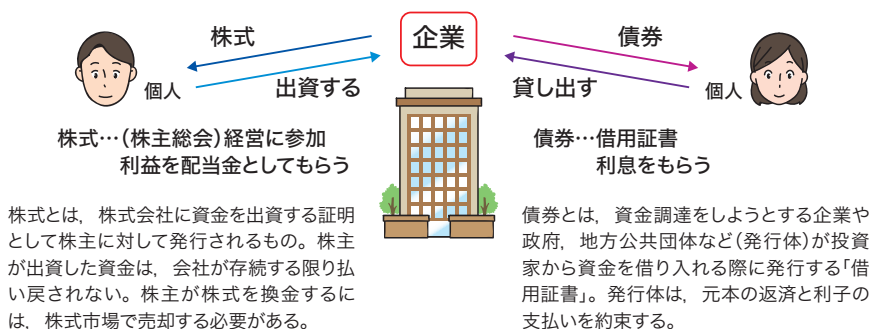
リスクとは、お金を運用する上でお金が大きく減ってしまうような、「結果(**リターン**)」が分からない不確実な状態」のことをいいます。

「1つのカゴにすべての卵を盛るな」という格言があります。投資する場合、1つの資産に集中して投資するのではなく、値動きが異なる複数の資産に**分散投資**をすることで、リスクを抑えることができます。

投資のリスクとは、この先どうなるかわからない「不確実性」のことです。

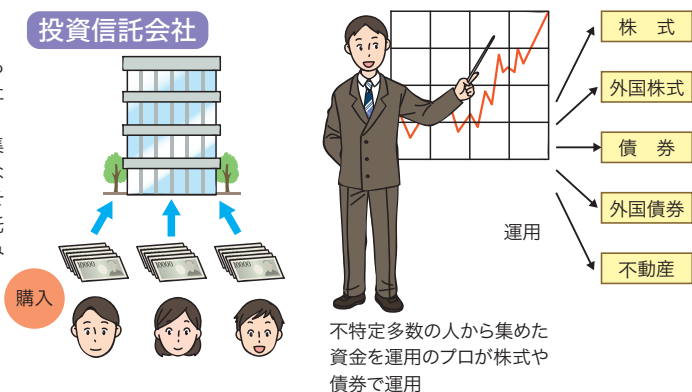


株式と債券の仕組み



投資信託の仕組み

投資信託とは「ファンド」とも呼ばれる。まず、証券会社や銀行などの販売会社が、多くの投資家からお金を集め、一つにまとめて大きな資金(信託財産)を作る。そしてそれを専門家(投資信託委託会社)が運用する仕組みである。



3 自己投資も大切な投資の1つ

金融商品への投資だけでなく、仕事に必要なスキルを身に付けたり、資格を取得したり、見聞を広めたりといった、自分に対する**自己投資**も大切です。

自己投資は、キャリアアップだけでなく、人的資産の価値が高まり、その対価ともいえる給与に反映され、収入の安定にもつながります。

最近では、義務教育や高校・大学などを卒業し、仕事に就いてからも、必要と感じたタイミングで学び直す**リカレント教育**にも注目が集まっています。

ミニワーク

年代別に保有する金融商品の種類と金額を調べてみよう。

金融広報中央委員会▶



プラス
+ONE

●● 「投資」の必要性



長寿化によって、手持ちの資産を取り崩す期間が長くなり、資産寿命をいかに延ばすかが重要になっています。国も「**つみたてNISA**」や「**iDeCo (個人型確定拠出年金)**」など税制優遇のある仕組みを作り、国民の自助努力を後押ししています。「人生100年時代」においてはお金にも働いてもらう投資が人生を豊かにする有効な資産形成方法の1つなのです。



Ⅲ お金を借りる

1 なぜ、お金を借りることができる？

Think! 親友からお金を貸して欲しいと頼まれたら、あなたはいくらまで貸すだろうか？

金額	いくらでも貸しちゃうよ。	1,000円くらいかな。	うーん、お金を貸していいのかな…？
理由			

Think! 「信用」が高い人、低い人の違いを考えてみよう。

信用が高い人	信用が低い人
--------	--------

お金を借りられるのは、借りる人に「**信用**」があるからです。また、銀行などのローンを利用した場合、返済の際に**利息**が必要となります。一定の期間において支払う利息の割合を**金利**といい、**借りた金額(元金)**に対して利息を計算する場合に用いられます。

$$\text{借りた金額(元金)} \times \text{金利} \times \text{借入期間} = \text{利息}$$

では、金利はどのようにして決まるのでしょうか？ 主な金利の変動要素として、次のようなものが挙げられます。

金利の変動要素

- ①お金を貸すためのコスト
- ②お金を借りる人の信用
- ③担保^{*}の有無
- ④需要と供給のバランス

※担保とは、契約を履行できず不利益が生じた場合に備えるため、あらかじめ何らかの物品等を提供させる行為やその対象のこと。土地や車などの「物」による担保と保証人などの「人」による担保がある。

例えば、あなたにお金を貸して欲しいと言った親友に、

- 信用が高ければ、返済が行われない可能性が低くなるので、金利も低めに設定する。
- 反対に、信用が低ければ、万一返済が行われない場合を想定して、金利は高めに設定する。

ということです。

銀行や消費者金融が設定する貸出金利は一定ではなく、貸付上限や貸付期間などの条件なども会社によってさまざまです。借り入れの際には、必ず金利や貸付条件を比較検討するようにしましょう。



2 返済可能な範囲で借り、必ず返済する

お金が必要になったときに、貯蓄がない場合や貯蓄を取り崩したくない場合、一時的に**お金を借り**るという選択肢もあります。クレジットカードで支払ったり、ローンを組んで買い物をするのも同じです。ただし、これらは借金ですので、便利な反面、注意も必要です。

お金は借りたら返さなければいけません。そのため、お金を借りる際には、どれだけ借りられるかよりも、きちんと返せるかどうかを確認することが大切です。

もし返済できない場合、担保となった財産が差し押さえられる可能性もあります。個人情報情報機関にあなたが利用した金融機関のサービスの情報が登録され、その後の借り入れなどが難しくなるかもしれません。

3 奨学金と教育ローン

みなさんが大学などに進学したり、学費や生活費などが足りなくなったりしたときに役に立つものとして、**奨学金**や**教育ローン**があげられます。公的な奨学金として日本学生支援機構の奨学金、教育ローンとして日本政策金融公庫の「国の教育ローン」が代表的です。

特に利用者が多い日本学生支援機構の奨学金には、返還(返済)が必要な**貸与型**と返還(返済)が不要な**給付型**があります。貸与型は、消費者金融などと比べて安全なイメージはありますが、「借金」であることには変わりはありません。卒業後には返還(返済)の義務が生じることは十分理解しておきましょう。

貸与型奨学金の種類

	第一種奨学金	第二種奨学金
貸与対象	特に優れた学生及び生徒で経済的理由により著しく就学困難な人	第一種奨学金よりゆるやかな基準によって選考された人
利息	無利息	利息有(在学中は無利息)

ミニワーク

教育ローンと奨学金の利用条件を比較してみよう。また、返済のシミュレーションもしてみよう。

	教育ローン(国の教育ローンの場合)	貸与型第二種奨学金(日本学生支援機構の場合)
返済する人		
最大の借入額		
金利		

日本政策金融公庫「教育ローン用 返済シミュレーション」日本学生支援機構「奨学金貸与・返還シミュレーション」▶



プラス ONE

リボルビング払い(リボ払い)について

クレジットカードの支払い方法には、一括(1回)払い、分割払い、**リボルビング払い(リボ払い)**があります。リボ払いとは、買った商品の金額にかかわらず、月々の返済額を1万円など、あらかじめ自分で決めた一定額を毎月返済する方法です。毎月の返済額が抑えられますが、手数料がかかる上、支払いの状況がわかりにくく、途中で新たな買い物をすると借入残高がさらに増えるので要注意です。



IV ワーク 「もしもお金を借りるとしたら？」

大学生のあなたは毎月、保護者からの仕送りとアルバイトで生活しています。先日、ケガをしてアルバイトができなくなり、生活が苦しくなりました。今月納めなくてはいけない学費が50万円足りません。

あなたなら
どうする!?



1 以下の3つの方法のうち、どれを選びますか？

- ①保護者から借りる：金利はゼロだが、毎月の仕送りを減らしたいと言われた。
- ②YA銀行：金利は低いが、融資を受けるまでに10日程時間がかかる。手続きも面倒。
- ③YBファイナンス：即日融資を受けられるが、金利は高い。

- 選んだ方法 ()
- その理由

2 あなたの選んだ方法の年利を【 】に入れて計算してみよう。

方法	保護者から借りる	YA銀行	YBファイナンス
年利	ゼロ	7%	18%

A：50万円借りて、1年後に一括返済した場合の返済総額

計算方法

50万円 + (50万円 × (【 】 ÷ 100)) × 1年 = ()円

(例) 年利5%の場合：50万円 + (50万円 × (【5】 ÷ 100)) × 1年 = 525,000円

方法	保護者から借りる	YA銀行	YBファイナンス
返済総額	円	円	円

B：50万円借りて、毎月元利合計を5万円ずつ返済した場合の返済期間・返済総額

〈計算方法〉

毎月返済額 (A)：50,000円

利息額 (B) ：借入金残高 (D) × (年利 ÷ 12か月 ÷ 100)

元金返済額 (C)：毎月返済額 (A) - 利息額 (B)

借入金残高 (D)：前回借入金残高 - 元金返済額 (C)

返済期間 (毎月返済額 (A) 50,000円)

返済期間	YA銀行 (7%) で借りた場合			YBファイナンス (18%) で借りた場合		
	利息額 (B)	元金返済額 (C)	借入金残高 (D)	利息額 (B)	元金返済額 (C)	借入金残高 (D)
1か月目	2,917円	47,083円	452,917円	7,500円	42,500円	457,500円
2か月目	2,642円	47,358円	405,559円	6,863円	43,137円	414,363円
3か月目	2,366円	47,634円	357,925円	6,215円	43,785円	370,578円
4か月目	2,088円	47,912円	310,013円	5,559円	44,441円	326,137円
5か月目	1,808円	48,192円	261,821円	4,892円	45,108円	281,029円
6か月目	1,527円	48,473円	213,348円	4,215円	45,785円	235,244円
7か月目	1,245円	48,755円	164,593円	3,529円	46,471円	188,773円
8か月目	960円	49,040円	115,553円	2,832円	47,168円	141,605円
9か月目	674円	49,326円	66,227円	2,124円	47,876円	93,729円
10か月目	386円	49,614円	16,613円	1,406円	48,594円	45,135円
11か月目	97円	16,613円	完済	677円	45,135円	完済
合計	16,710円	500,000円		45,812円	500,000円	

※11か月目の返済額は、YA銀行16,710円、YB銀行45,812円

円未満は四捨五入

方法	保護者から借りる	YA銀行	YBファイナンス
返済期間		か月	か月
返済総額	円	円	円

計算方法

返済総額 5万円×(☆)か月+(★)=()円

☆5万円返済した回数

★返済額が5万円未満になった場合の借入金残高×利率

利率=1+(年利÷12か月÷100)

(例)年利7%の場合:5万円×10か月+16,613円×(1+7%÷12か月÷100)

3 借り入れ先の選択や金利計算の結果からわかったことは？**4 お金を借りることのメリットと留意点を考えてみよう。**